

平成 16 年 5 月の解説

【5 月の天候状況】

低気圧や前線が日本海を中心にたびたび日本付近を通過したため、いつもの年に比べて曇りや雨の降る日が多くなりました。

また、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが平年より強く、低気圧や前線に向かって吹き込む南よりの風の影響も加わって、全国的に高温となる日が多くなりました。

南西諸島では、上旬の中頃から前線の影響を受けるようになり、ほぼ平年並に梅雨入りしましたが、梅雨入り後の低気圧や前線の活動は比較的不活発で、少雨傾向が続いています。

18 日から 21 日頃にかけては、台風第 2 号の影響で前線の活動が活発になって、東・西日本を中心にまとまった雨が降りました。加えて、台風の通過後には関東地方などでは冷たい空気が流れ込んで一時的に低温となりました。

下旬の終わり頃には、一時南下していた前線が再び北上して、九州南部では平年並、九州北部・中国・四国の各地方では平年に比べてかなり早めに梅雨入りしました。

31 日は日本海側からゆっくり南下する前線に向かって暖気が流れ込んだため、東京の 9 時までの最低気温が 24.7℃と、5 月の新記録となりました。また、最低気温が高かった上に、日中の強い日差しも加わって最高気温は 30℃を超える所が多くなり、東京では 2 日続きの真夏日となりました。

【5 月の検証結果】

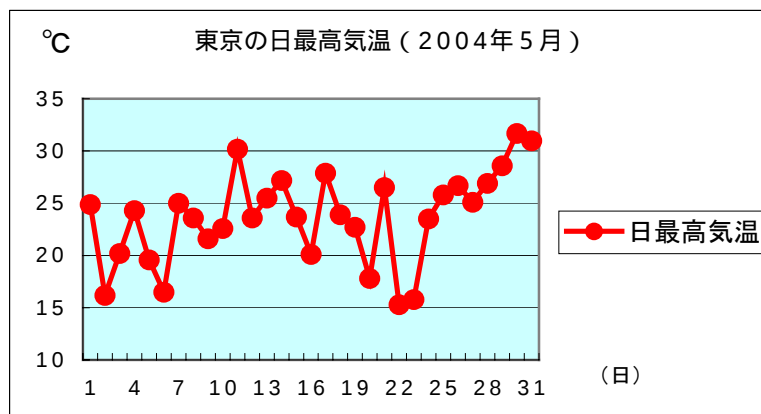
17 時発表予報の「降水の有無」の適中率は、全国平均で明日予報がほぼ例年並（注）の 84%、明後日予報が例年より 2 ポイント以上高い 82%でした。

東京の日最高気温の変化（下図）に見られるように、今年の 5 月は気温の変動が極めて大きくなりました。

例年 5 月は日々の気温の変動が大きい月ですが、最高気温が 30℃以上の真夏日が 3 日も観測されたのは初めてです。一方、下旬でも最高気温がようやく 15 度を超えるような気温の低い日も現れるなど、今年の 5 月は気温の変動が際立って大きかったと言えます。

最高気温の予報誤差は、この大きな変化を的確に予測できなかった影響で、関東甲信地方で例年より 1.0℃、九州南部地方で 0.5℃、全国平均でも 0.3℃それぞれ大きくなりました。

最低気温の予報誤差は、ほぼ全国的に例年並か例年よりやや小さくなっています。



この時期、三陸沖から関東の東海上にかけては海面水温が低いため、この海上を流れる空気は冷やされて気温が下がります。このため、関東地方では東あるいは北東の風になると、海上から冷涼な湿った空気が流れ込み、悪天をもたらすことがあります。

実際は、関東地方の天気は小雨または曇りとなり、東京の日中の最高気温は13.3℃で、3月下旬に相当する寒さでした。

5月22日の海面水温 (数字は℃)

【7月の天気予報の利用にあたって】

7月 は中旬から下旬にかけて、梅雨が明けるとともに雨の季節から暑い夏の季節へと移ります。しかし、梅雨明けをはさんで天気がガラリと変わるような典型的な梅雨明けばかりではありません。

梅雨末期には梅雨前線の活動や移動を的確に予測することが難しい場合も多く、前線の南北への動きによっては天気や気温が大きく変わることもあります。

天気予報の利用にあたっては、こうした天気の変化などにも十分に注意してください。

(注) 例年値は気象庁HP（評価）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。